歴史散歩（８）

新指定の文化財・国指定史跡 多気北畠氏城館跡

多気北畠氏城館跡は、市の最南端近く、美杉町多気にある。

北畠氏は、南北朝時代に伊勢国に入り、その後室町から戦国時代を通じ多気を拠点に伊勢国を支配した。北畠氏館跡はまさにその中枢にあたる。

館は多気の谷のほぼ中央にあり、東と南北の三方向を川で、西を霧山城から続く急峻な斜面によって区画されている。その平面形は南北約200メートル、東西に約110メートルの台形状で、上段・中段・下段の高低差約７メートルの３段構造となる。現在は上段が北畠神社、中段が民家と道路、下段が耕作地として利用されている。

館跡の発掘調査は平成８年から始められ、これまでに15世紀前半から16世紀後半までの館の様子が徐々に解明されつつある。中世城館では国内最古となる石垣をはじめ、建物跡もいくつか確認されている。

出土品では、中国産の陶磁器、瀬戸美濃、常滑、信楽、備前などの各地域から運び込まれた陶器、地元産の土器、京都とのつながりを示す皿類などが多数見つかっている。その内容は、青磁の壺や大皿、茶器、来賓をもてなす宴会で使用された器や仏具、

中世城館では国内最古とされる石垣

日用の食器類、調理具、鎧の一部の武具など多種多様で、質・量とも伊勢国司北畠氏の権威と風格を示すに十分なものである。出土した資料の一部は、美杉ふるさと資料館でご覧いただける。

本年７月、北畠氏館跡は北畠氏館跡庭園と後背山上にある霧山城とを合わせ「多気北畠氏城館跡」として国史跡に指定された。残暑厳しい折、北畠神社境内に現存する室町時代に築かれた庭園を眺めながら、涼を取られてはいかがだろうか。

（「広報津」平成18年９月１日号）